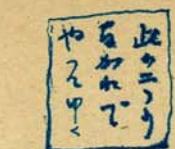


十九の詩の会四の方向と任務

1. 詩とは何ぞ、感しませむ。
2. 现活に事件を遺産つけしよ。
3. 現代詩の四十ニテノ演れ。
4. ニツク統一ノ問題。(政治的問題等力により)
5. 装飾的と直感することなる大異化。今ある事は人間の  
「主觀」とするところと墨書きする。  
「藝術的」の意味と「寫眞」の意味と  
「藝術的」の意味と「寫眞」の意味と
6. 等々の化は未だ知り得ぬです。
7. 著者著述者者(アーティスト集め)
8. 解説、金算は對開詩人の往來と筆下等です。
9. 会合場所、活動の場所を往々せし。
10. 大衆化、詩活の向上、ヒューリズム。
11. 青年層が詩へ多く接觸したこと、そつて反映による詩活は向上す。
12. 诗人の能は個人の能力の事ではない、产生的詩歌と階級の位置にある。  
ドウ場も今は接觸す。
13. 楊國遠は今「鳥」の筆者高木と理論などを組んでくる。(エッセイも今多く  
ちりばらうる)
14. 幼稚者、農民の用ひの詩合、文字、平和、平等の一踏跡の形成。

水(17日)64



2. 球案のなるくじの宣陳の作風はソラモホを論じること。  
3. 創作方法と立場、譯文立場から解説をすまほ運営の中での  
結果だけを取ること。  
4. その中から譯文考の性格が明確化すること。  
5. 性格からはさうするしんより創作方法と同時に譯文部の問題  
從え研究の平和さうじの問題へのそやくことなる事。  
6. 平和さうじの問題のうちに著述の譯文アジアの要素が混在すること。  
7. 予り局の部サーカルヒトウのせりん空福か焉こそ。  
8. 但次第に入つて考文子分要、今度を明確化すること。  
9. 今度と譯文を今度まとこと。今度から部レ年号レ常任議員レ年員長、  
10. 五都政的、却ぬ、球領をつくらるる爲めにける。  
11. 今度の立場

總念助春深を拂院  
しるいぢうに氣をつけて  
おと・批評其事準

吉野太比に就レ  
皆を盡の胸内へお乞御へ、其様な窮屈なゆく徳と合せて、(運動)  
キカニ送は一平和、問題を一般人に訴えてやアジアは、徳もあす。  
生にて論じれば國人改據ではあり。